

全国



実効再生産数

1/10	5.68
1/20	2.58
1/23	1.93
1/31	1.46
2/1	1.28
2/7	1.15
3/14	0.93
3/21	0.98
3/28	0.95
4/4	1.05
4/11	1.01
4/18	0.98
4/25	0.97
5/10	0.97
5/16	1.07
5/21	0.97
5/21	0.97
5/29	0.93
6/6	0.90
6/13	0.95
6/20	0.98

宮崎



実効再生産数

1/10	7.46
1/20	3.68
1/23	2.29
1/31	1.50
2/1	1.31
2/7	1.15
3/14	0.97
3/21	1.01
3/28	0.96
4/4	1.19
4/11	1.10
4/18	1.04
4/25	0.92
5/10	1.00
5/16	1.09
5/21	0.97
5/29	0.93
6/6	0.91
6/13	0.90
6/20	0.96

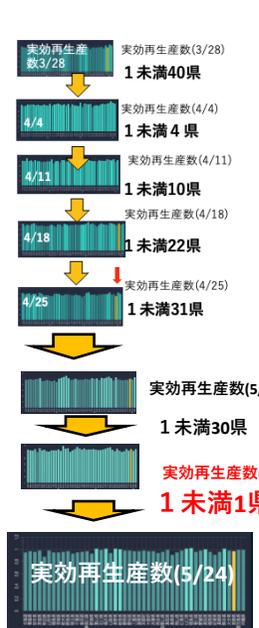
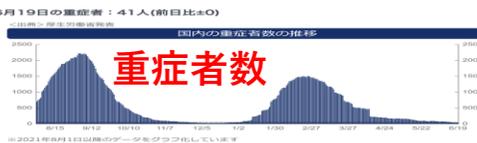
福岡



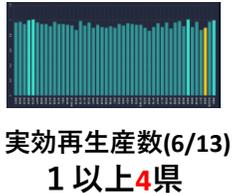
実効再生産数

1/10	24.3
1/20	4.69
1/23	2.38
1/31	1.30
2/1	1.05
2/7	0.93
3/14	1.00
3/21	1.02
3/28	0.96
4/4	1.06
4/11	1.03
4/18	0.99
4/25	0.99
5/10	0.97
5/16	1.04
5/21	0.96
5/29	0.93
6/6	0.89
6/13	0.92
6/20	0.96

宮崎県DATA(6/21)
医療機関入院中21名(延6)
宿泊療養施設入所中43名(延21)
自宅等療養者1145名

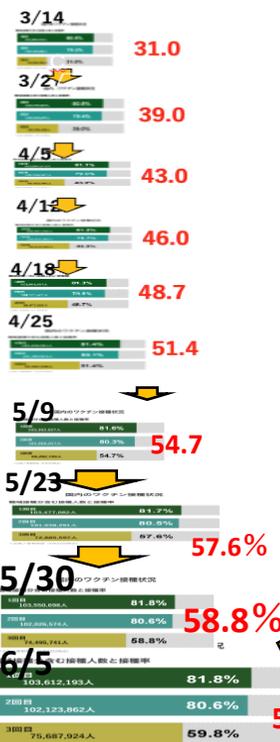


熊本、佐賀、長崎 1 以上
実効再生産数(6/20)
1 以上19県

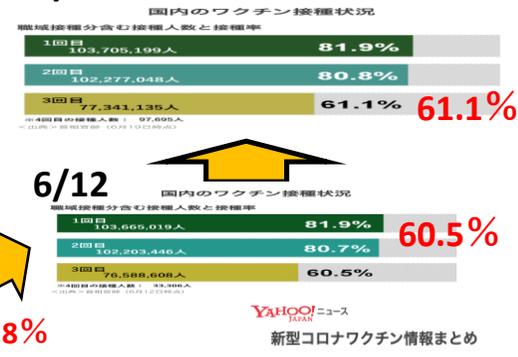


1 未満41県

実効再生産数(6/13)
1 以上4県



ワクチン接種
0.6%/w増加 60%達成!
6/19



家族内感染、高齢者施設、障害者施設、高校部活の感染増加している
 宮崎県: 10万人あたりの感染者国内で10番目
 7月中旬まで感染者が低い状態続き、その後BA.5が増加し、8月のお盆休み以降にピーク
 その後9月後半には減少する

延岡市の実効再生産数

5/16	1.26
5/23	1.09
5/30	0.74
6/3	0.76
6/7	0.92
6/14	0.68
6/21	0.95

実効再生産数増加
注意必要

新型コロナウイルスの感染経路

飛沫感染 > **接触感染**



厚生労働省
コロナ感染予防のためのパンフレットより

3つの【密】、絶対に避けて

換気の悪い
密閉空間



むんむん

大勢がいる
密集場所



ぎゅうぎゅう

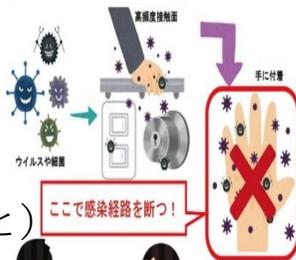
間近で会話する
密接場面



がやがや

厚生労働省
コロナ感染予防のためのパンフレットより

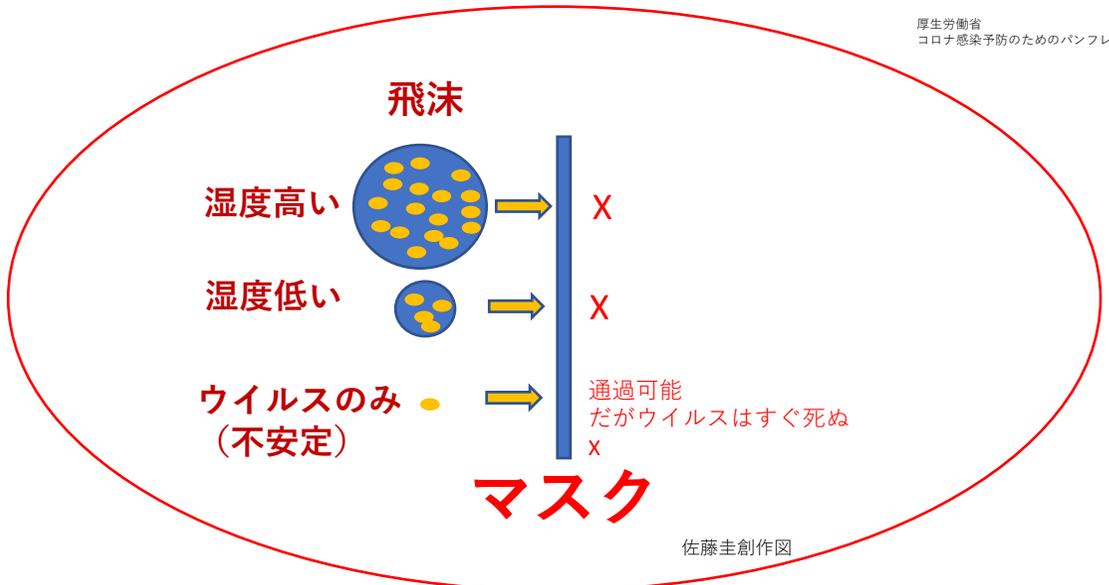
新型コロナウイルス感染症は、図のように感染していきます。



手洗い大事
(トイレのあと)



厚生労働省
コロナ感染予防のためのパンフレットより



佐藤圭創作図

最近の研究でウイルスは、そんなに長く生存できないと判明
(長くても24時間程度)

飛沫感染対策重要

+ウイルスが多いところに接触した後の接触感染対策

4つのマスクの効果

注意) マスクは、できるだけ不織布を使用してください。

1. 飛沫感染予防
2. 口腔内、鼻腔内、気道の加湿効果→せん毛運動が活発になる→ウイルスが感染しにくい
3. 手指についたウイルスが、鼻、口に入るのをブロックする
4. 他の人にうつさない

マスクの着用注意点

感染のリスクと健康被害のリスクを考えバランスを取ることが大事
(臨機応変に対応することが重要)

新型コロナウイルス
飛沫感染防止

マスク着用による
健康被害リスク

飛沫感染に影響を与える因子

現在の感染状況
屋内か屋外か？
換気状態は？
会話の量
会話相手との距離
交通機関の混雑状態
行動様式（会話、運動）

屋内では「会話をするなら、マスク推奨」

健康被害リスクに影響を与える因子

湿度
気温
発汗量
飲水量
体温
運動・作業の強度
運動・作業の時間
呼吸器系統の基礎疾患
の状態
2歳未満の子供

マスクが湿ると、フィルター機能に障害
→息苦しくなる、蒸れやすくなる、体温
が上がる



出典：政府「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針変更（令和4年5月23日）」

熱中症
呼吸困難
マスク皮膚炎
などの発症に注意

屋外・屋内でのマスク着用について



- マスク着用は従来同様、基本的な感染防止対策として重要です。一人ひとりの行動が、大切な人と私たちの日常を守ることに繋がります。
- 屋外では、人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合や、距離が確保できなくても、会話をほとんど行わない場合は、**マスクを着用する必要はありません。**
- 屋内では、人との距離（2m以上を目安）が確保できて、かつ会話をほとんど行わない場合は、**マスクを着用する必要はありません。**



【屋外】

距離が確保できる

距離が確保できない

<p>マスク必要なし</p> <p>会話を する</p> <p>目安2m以上</p>	<p>マスク着用推奨</p>
<p>マスク必要なし</p> <p>会話を ほとんど 行わない</p> <p>公園での散歩やランニング、サイクリングなど</p>	<p>マスク必要なし</p> <p>徒歩や自転車での運動など、屋外で人とすれ違う場面</p>

【屋内】

距離が確保できる

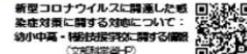
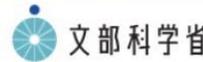
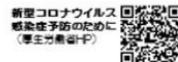
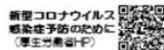
距離が確保できない

<p>マスク着用推奨</p> <p>会話を する</p> <p>目安2m以上</p> <p>※十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可</p>	<p>マスク着用推奨</p>	
<p>マスク必要なし</p> <p>会話を ほとんど 行わない</p> <p>目安2m以上</p> <p>距離を確保して行う 図書館での読書、芸術鑑賞</p>	<p>マスク着用推奨</p> <p>通勤ラッシュ時や人混みの中ではマスクを着用しましょう</p>	

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。
体調不良時の出勤・登校・移動はお控えください。



夏場は、熱中症防止の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨します。



子どものマスク着用について



人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合においては、マスクを着用する必要はありません。また、就学前のお子さんについては、マスク着用を一律には求めていません。



就学児について

（小学校から高校段階）

マスク着用の必要がない場面



屋外

- ・人との距離が確保できる場合
 - ・人との距離が確保できなくても、会話をほとんど行わないような場合
- ＜例＞離れて行う運動や移動、鬼ごっこなど密にならない外遊び
- ＜例＞屋外で行う教育活動（自然観察・写生活動等）

屋内

- ・人との距離が確保でき、会話をほとんど行わないような場合
- ＜例＞個人で行う読書や調べたり考えたりする学習

学校生活

屋外の運動場に限らず、プールや屋内の体育館等を含め、体育の授業や運動部活動、登下校の際※運動部活動において接触を伴う活動を行う場合には、各競技団体で作成するガイドライン等を確認しましょう

※活動中以外の練習場所や更衣室等、食事や集団での移動を行う場合は、状況に応じて、マスク着用を含めた感染対策を徹底しましょう

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。

保育所・認定こども園・幼稚園等の就学前児について

2歳未満

マスクの着用は推奨しません。

2歳以上の就学前の子ども

他者との距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めていません。マスクを着用する場合は、保護者や周りの大人が子どもの体調に十分注意した上で着用しましょう。



気をつけるポイント

- ▶夏場は、熱中症防止の観点から、マスクが必要ない場面では、マスクを外すことを推奨します。
 - ▶マスクを着用しない場合であっても引き続き、手洗い、「密」の回避等の基本的な感染対策を継続しましょう。
- ※その他世帯の状況に応じて、講じられている対策がある場合、それを踏まえ対応をお願いします。



マスク着用について

- 感染者数の減少・追加ワクチン接種率増加による感染リスクの減少、湿度・気温の増加による熱中症などの健康被害の可能性増加などから、マスク使用の可否について議論されるようになってきた。
- 現時点で、国内の感染者数は、昨年8月のデルタ株のピーク時と同等の感染者数であり、感染のリスクは十分にある。しかし、感染しても重症化する人は少ないため、医療リスクは低く、相対的なリスクは低下している。
- 一方、湿度・気温の上昇、体温・発汗量の上昇しやすさを考えると、熱中症やフィルター機能低下による呼吸困難が生じやすくなっている。
- そこで、「一律にマスクを外す」ということではなく「状況に合わせてマスクを外す」ことが重要であると考える。
- **屋外**では、他者と身体的距離（2 m以上を目安）が確保できない中で会話を行う場合のみマスク着用を推奨。それ以外の場面については、マスクの着用の必要はない（例：公園での散歩やランニング、サイクリング/徒歩や自転車での通勤、屋外で人とすれ違う場面）。特に夏場については、熱中症予防の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨します。
- **屋内**では、他者と身体的距離が確保できて会話をほとんど行わない場合（例：距離を確保して行う図書館での読書、芸術鑑賞）のみ、マスク着用の必要がない。それ以外の場面については、マスクの着用を推奨します。
- **小学校から高校段階の就学児**については、**屋外活動**においてマスク着用が不要な条件は、他者と身体的距離が確保できる場合（例：離れて行う運動や移動、鬼ごっこなど密にならない外遊び）や、他者と距離が確保できなくても会話をほとんど行わない場合（例：屋外で行う教育活動（自然観察・写生活動等））。**屋内活動**においてマスク着用が不要な条件は、他者と身体的距離が確保できて会話をほとんど行わない場合（例：個人で行う読書や調べたり考えたりする学習）。
- **保育所・認定こども園・幼稚園等の就学前児**については、まず、**2歳未満**の子どもでは**マスク着用は推奨されない**。また、2歳以上の就学前の子どもについても、個々の発達の状況や体調等を踏まえる必要があることから、他者との身体的距離にかかわらず、マスク着用を一律には求めない。**本人の体調がすぐれず持続的なマスクの着用が難しい場合は、無理に着用する必要はなく、特に夏場については、熱中症予防の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨します。**
- 重要なことは、パンフレットなどを参考にし、状況に合わせてマスクの着用について考えて実行する習慣をつけることであると考える。
- 是非、パンフレットをダウンロード・プリントして、いつもチェックできる状態を作っておくと良いと考える。

(厚生労働省：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00001.html からダウンロード可能)